

# ムサシアブミ

## サトイモ科

湿った林下、特に海岸近くの林によく見られる。

仏炎苞の形を馬具の鐙(あぶみ)に例えたことからこの名がついた。

葉は2枚で小葉は3枚。



仏炎苞(拡大)



仏炎苞(拡大)

# ウラシマソウ

## サトイモ科

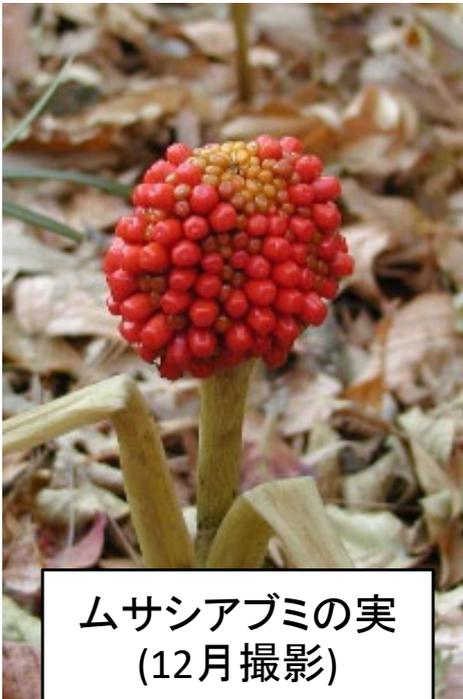
林下や林縁などに生える。

仏炎苞内部の付属体の先が糸状に伸びる様子を、浦島太郎の釣り糸に見立てた。

葉は普通1枚で小葉は11〜17枚。

晩秋になると雌株の実が赤く色づく。

比較するとウラシマソウの方が細身で、ムサシアブミの方が大きく丸みをおびているという違いがわかる。



ムサシアブミの実  
(12月撮影)



ウラシマソウの実  
(11月撮影)